

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-95258

(P2010-95258A)

(43) 公開日 平成22年4月30日(2010.4.30)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 25/52 (2006.01)	B 6 5 D 25/52 A	3 E 0 6 2
B 6 5 D 51/24 (2006.01)	B 6 5 D 51/24 Z	3 E 0 8 4

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2008-264907 (P2008-264907)	(71) 出願人	500066182
(22) 出願日	平成20年10月14日(2008.10.14)		山田化学株式会社
			三重県伊賀市大内岩根662-1
		(74) 代理人	100076406
			弁理士 杉本 勝徳
		(72) 発明者	山島 俊也
			三重県上野市大内岩根662-1 山田化学株式会社内
		Fターム(参考)	3E062 AA20 AB11 AC02 LA02 LA10
			LA19 MA07
			3E084 AA02 BA01 CA01 FD05 GA06
			GB06 GB26 JA01 LB07

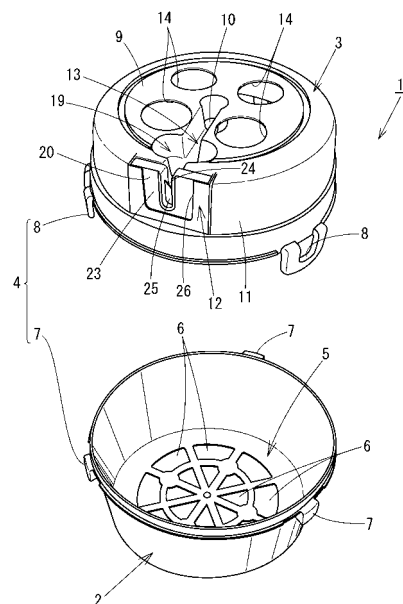
(54) 【発明の名称】 カッター付き紐収納ケース

(57) 【要約】

【課題】、簡単な構造で、かつ使用する操作も容易な有用性の高いカッター付き紐収納ケースを提供できるようにする。

【解決手段】玉巻きまたはロール巻きの紐を収容する紐収納ケースと、この紐収納ケースに収納された紐を引き出す引き出し口と、引き出し口から引き出された紐を切断するカッターを備えたカッター付き紐収納ケースにおいて、紐収納ケースを身部分と蓋部分とで開閉可能に構成し、蓋部分の上面中央部もしくはその近傍に紐を引き出す引き出し口を開口させるとともに、蓋部分の側壁の上端近傍部にカッターを設けてなり、該カッターは、刃をホルダに装着しこの、刃を装着したホルダを取り付けるホルダ取り付け部を蓋部分の側壁部分に設けて構成した。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

玉巻きまたはロール巻きした紐を収容する紐収納ケースと、この紐収納ケースに収納された紐を引き出す引き出し口と、引き出し口から引き出された紐を切断するカッターを備えたカッター付き紐収納ケースにおいて、紐収納ケースを身部分と蓋部分とで開閉可能に構成し、蓋部分の上面中央部もしくはその近傍に紐を引き出す引き出し口を開口させるとともに、蓋部分の側壁の上端近傍部にカッターを設けてなり、該カッターは、刃をホルダに装着しこの、刃を装着したホルダを取り付けるホルダ取り付け部を蓋部分の側壁部分に設けて構成したことを特徴とするカッター付き紐収納ケース。

【請求項 2】

紐の引き出し口とカッターとの間の蓋部分の上面に紐導出路を設け、該紐導出路の途中部分に紐押さえ部を形成したこと特徴とする請求項 1 に記載のカッター付き紐収納ケース。

【請求項 3】

蓋部分を透明もしくは半透明の合成樹脂で形成し、又はノ及び蓋部分の上面に透孔を形成してなる紐収納ケースに収納された紐の視認手段を設けたことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のカッター付き紐収納ケース。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、玉巻きまたはロール巻きした紐を収容して、必要に応じて時に紐を引き出し、所望の位置で切断することができるカッター付き紐収納ケースに関するものである。

尚、本発明において、紐とは延伸テープはもちろんのこと縶られた索状物をも含むものである。

【背景技術】

【0002】

延伸テープを玉状やロール状に密に巻いた、いわゆる長尺のテープ紐は、玉状に巻かれた中央の空間部分から紐先を引き出し、荷造りや園芸用、あるいは家庭内整理に、と広く使用されている。

ところが、こうしたテープ紐を使用した後、もしくは所要の長さに切断した後の紐端が玉状に巻かれた内方の空間部分に落ちて込んでしまい取り出しにくくなるようなことが多くあった。

また、玉状やロール状に密に巻かれたテープ紐の残量が少なくなると保形力が弱くなり、外力が少しでも作用すると崩れて内部で絡んで縶れ、最後まで使用するのが難しくなるという問題もあった。

さらに、テープ紐は引っ張り強度優れているために、これを切断するためには鋏やナイフ等の切断具を使用しなくてはならず、こうした切断具を常時近傍に備えおかなくてはならないという煩わしさがあった。

【0003】

そこで、上記のような問題に対処するために特許文献 1 に示すように、玉巻きまたはロール巻きした紐状体を収容するケースと、前記紐状体の先端を引き出すために前記ケースに設けられた引出孔と、前記引出孔の周縁壁に設けられた、前記紐状体の先端に係止するための先端係止スリットと、前記ケースに開閉自在に設けられ、閉じたときに前記引出孔と前記先端係止スリットとを上から覆い、それにより前記先端係止スリットに係止された紐状体の先端部分を上から押さえる孔カバーとを備、この起伏可能な孔カバーに切り刃を設けてなるカッター付き紐収納ケースが提案されている。

【0004】

しかしながら、こうした先の提案にかかるカッター付き紐収納ケースでは、孔カバーを揺動可能にするために構造が複雑になるうえ、操作も当該カバーを折り起こし、その折り起こした状態を維持しながらテープ紐を引き出したり、折り起こした状態を維持しながらテ

10

20

30

40

50

ブ紐を孔カバーに設けた切り刃（カッター）で切断したりしなくてはならないという操作上にも問題があった。

【特許文献１】特開平８－１３３２９８号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

本発明は上記諸問題に鑑み提案されたもので、簡単な構造でかつ操作も容易な有用性の高いカッター付き紐収納ケースを提供できるようにすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

10

上記目的を達成するために本発明にかかるカッター付き紐収納ケースは、玉巻きまたはロール巻きした紐を収容する紐収納ケースと、この紐収納ケースに収納された紐を引き出す引き出し口と、引き出し口から引き出された紐を切断するカッターを備えたカッター付き紐収納ケースにおいて、紐収納ケースを身部分と蓋部分とで開閉可能に構成し、蓋部分の上面中央部もしくはその近傍に紐を引き出す引き出し口を開口させるとともに、蓋部分の側壁の上端近傍部にカッターを設けてなり、該カッターは、刃をホルダに装着しこの、刃を装着したホルダを取り付けるホルダ取り付け部を蓋部分の側壁部分に設けて構成したことを最も主要な特徴とするものである。

【０００７】

また、本発明にかかるカッター付き紐収納ケースでは、紐の引き出し口とカッターとの間の蓋部分の上面に紐導出路を設け、該紐導出路の途中部分に紐押さえ部を形成したことや、蓋部分を透明もしくは半透明の合成樹脂で形成し、又は／及び蓋部分の上面に透孔を形成してなる紐収納ケースに収納された紐の視認手段を設けたことも特徴とするものである。

20

【発明の効果】

【０００８】

本発明のカッター付き紐収納ケースによれば、紐収納ケースを身部分と蓋部分とで開閉可能に構成し、蓋部分の上面中央部もしくはその近傍に紐を引き出す引き出し口を開口させるとともに、蓋部分の側壁の上端近傍部にカッターを設け、このカッターは、刃をホルダに装着し、この刃を装着したホルダを取り付けるホルダ取り付け部を蓋部分の側壁部分に設けて構成するという簡単な構造で済み安価に実施することができる利点がある。

30

【０００９】

しかも、収納ケースから引き出した紐を切断する場合、所望の紐部分をそのままカッターに押し付けて引き下げるだけの簡単な操作で済み、先の提案のような煩雑な操作をしなくても済むという利点もある。

【００１０】

また、紐の引き出し口とカッターとの間の蓋部分の上面に紐導出路を設け、該紐導出路の途中部分に紐押さえ部を形成したものである、紐押さえ部に差し入れた指で当該紐導出路部分の紐を軽く押さえることにより、紐を簡単に確実に、しかも綺麗に切断することができるという利点もある。

40

【００１１】

さらに、蓋部分を透明もしくは半透明の合成樹脂で形成し、又は／及び蓋部分の上面に透孔を形成してなる紐収納ケースに収納された紐の視認手段を設けたものでは、紐収納ケースに収納された紐の残量や絡みの有無等の形態を視認することができ、いっそう至便なものにすることができる利点もある。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１２】

以下、本発明にかかるカッター付き紐収納ケースの最も好ましい実施形態を図面に基いて説明する。

図１はカッター付き紐収納ケースの分解図、図２はカッター付き紐収納ケースの正面図

50

、図 3 はカッター付き紐収納ケースの平面図であって、図中符号 1 はカッター付き紐収納ケース（以下では単に収納ケースという）を全体的に示す。

この収納ケース 1 は、分離可能な紐収納ケース 1 を身部分 2 と蓋部分 3 とからなり、両者 2・3 は周囲 3 箇所形成された連結部 4 で着脱可能になっている。

【 0 0 1 3 】

上記身部分 2 は半透明の合成樹脂で上方の開口部分で大径になるような有底筒状に形成され、底部分 5 には軽量化用の模様孔 6 が穿設されるとともに、蓋部分 3 が取り付けられる上部開口の周縁の 3 等分箇所には連結部 4 を構成する突起 7 が一体に突出形成されている。

蓋部分 3 は、身部分 2 とは対象的に、半透明の合成樹脂で下方が開口する伏せ碗状に形成されており、開口の周縁で前記身部分 2 の開口部分の周縁に形成された突起 7 に係合する嵌合孔 8 が下方に突出する状態で形成されている。

この蓋部分 3 に形成された嵌合孔 8 と身部分 2 に形成された突起 7 とで前記連結部 4 が形成されている。

蓋部分 3 の天板部分（上面）9 にはその中央部分に紐の引き出し口 10 が形成され、側壁部分 11 にはカッター 12 が設けられるとともに、当該カッター 12 と紐の引き出し口 10 との間には紐導出路 13 が形成されている。

【 0 0 1 4 】

上記天板部分 9 には 4 つの視認用の円形窓（視認手段）14 が穿設されており、この視認用の円形窓 14 から収納ケース 1 内の紐 15 の残量や絡み具合等を直視することができる（図 5、図 6 参照）。

尚、視認用の円形窓 14 を省略することもでき、この場合は少なくとも収納ケース 1 の蓋部分 3 を透明もしくは半透明にすることにより、視認手段とすることができる。

そして、紐導出路 13 のカッター 12 寄り部分の左右の両側面の 1 部が横に広げられて紐押さえ部 19 が形成されている。

上記カッター 12 は図 4 に示すように、合成樹脂で略矩形に形成された板材 20 の左右の側部に下向き鋸形の装着片 21 を形成し、中間部分に上方が開口する切り溝 22 を係止したホルダ 23 に、切り刃 24 が形成された金属製薄板 25 をその切り刃 24 部分を上方にした状態でこのホルダ 23 に取り付けるとともに、切り刃 24 を取り付けしたホルダ 23 を装着するホルダ取り付け部 26 を、蓋部分 3 の側壁部分 11 に形成して構成されている。

【 0 0 1 5 】

上記のように構成された収納ケース 1 を使用する手順を次に説明する。

先ず、図 1 のように収納ケース 1 を身部分 2 と蓋部分 3 とに分離し、身部分 2 に延伸テープを玉状やロール状に密に巻いた紐 15 を入れ、ロール状に巻かれた紐 15 の中心の空間部分から紐端 18 を引き出す。このとき、蓋部分 3 にはカッター 12 を装着しておく。

次に、引き出された紐端 18 を蓋部分 3 の中央に形成されている紐の引き出し口 10 に挿通し、この状態で蓋部分 3 を身部分 2 にかぶせて、蓋部分 3 に形成された嵌合孔 8 と身部分 2 に形成された突起 7 とを嵌合させると、身部分 2 に蓋部分 3 がしっかりと固定される（図 5 参照）。

【 0 0 1 6 】

紐の引き出し口 10 から紐 15 を所望する長さ繰り出した後は、図 6 に示すように紐押さえ部 19 に指 27 を差し入れ、紐導出路 13 を通した紐 15 を押さえた状態で、その外方の紐 15 を下方に引き下げると、カッター 12 部分の紐 15 が切り溝 22 に入り、切り刃 24 部分で綺麗に切断される。

然る後、紐押さえ部 19 から指を出すと、紐導出路 13 内の紐 15 は紐の引き出し口 10 部分に保持されて図 5 に示すように立ち上がった状態に保持されて次の使用時に容易に引き出されるように保たれる。

【 0 0 1 7 】

尚、上記実施の形態では、身部分 2 の底部分 5 に模様孔 6 を穿設してあるが、こうした

10

20

30

40

50

模様孔 6 は本発明に必ずしも必須のものではなく、模様孔 6 をなくすることができるのはいうまでもないことである。

また、上記実施の形態では、連結部 4 を 3 箇所設けるようにしてあるが、その個数は 3 箇所に限られないことはもちろんのことであり、連結部 4 の構造は、前記蓋部分 3 に形成された嵌合孔 8 と身部分 2 に形成された突起 7 とに代えてねじ式に

して連結部 4 を形成することもできる。

さらに、収納ケース 1 の形状は円筒形に限られず角型にできるのはもちろんのことである。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 8 】

10

【図 1】は本発明にかかるカッター付き紐収納ケースの分解斜視図である。

【図 2】は本発明にかかるカッター付き紐収納ケースの正面図である。

【図 3】は本発明にかかるカッター付き紐収納ケースの平面図である。

【図 4】は本発明にかかるカッター付き紐収納ケースのカッターのホルダ部分の正面図である。

【図 5】は本発明にかかるカッター付き紐収納ケースの使用手順を示す斜視図である。

【図 6】は本発明にかかるカッター付き紐収納ケースの使用状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

【 0 0 1 9 】

20

1 . . . 紐収納ケース

2 . . . 身部分

3 . . . 蓋部分

4 . . . 連結部

9 . . . 上面（天板）

1 1 . . . 側壁部分

1 2 . . . カッター

1 3 . . . 紐導出路

1 9 . . . 紐押さえ部

1 5 . . . 紐

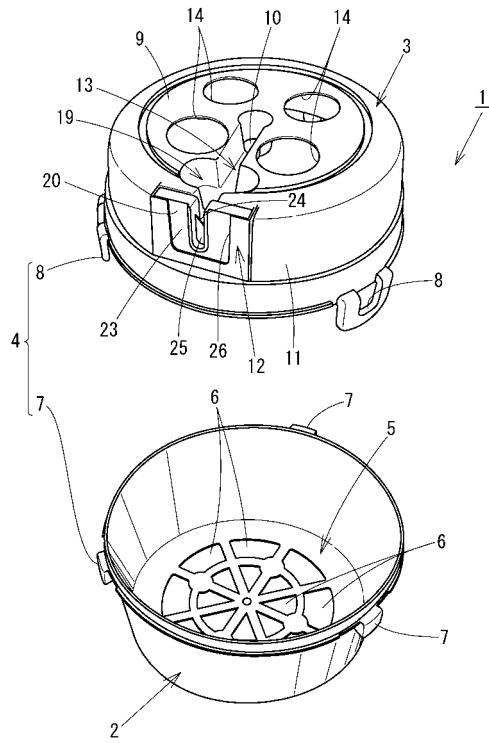
2 3 . . . ホルダ

30

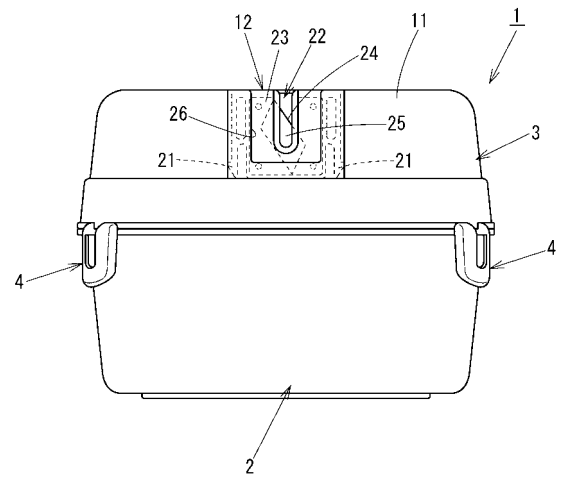
2 4 . . . 切り刃

2 6 . . . ホルダ取り付け部

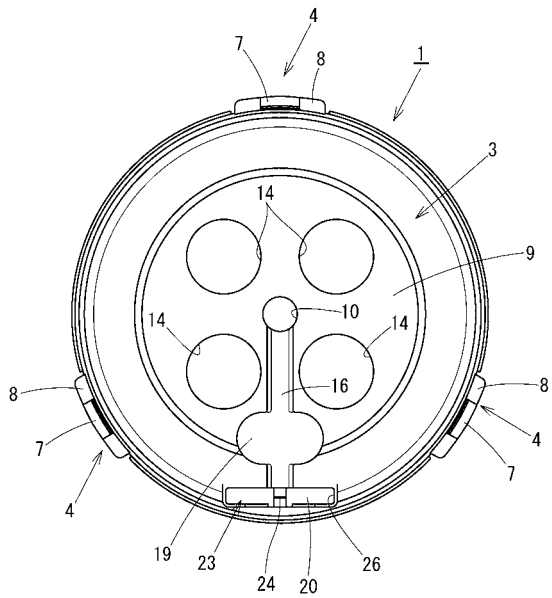
【図 1】



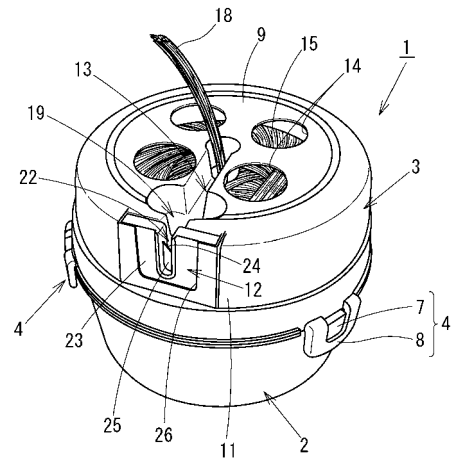
【図 2】



【図 3】



【図 5】



【図 4】

